

### 台風時の殉職

台風時には、水防団員、消防署員、警察官、行政関係者などが献身的に活動します。その職務活動中に殉職者が出ることがあります。徳島県阿波市と高知県安芸市の例をご紹介します。

#### ■第二室戸台風時の水防団員の殉職（徳島県阿波市）

昭和 36 年（1961）9 月 15 日から 16 日にかけて、第二室戸台風は徳島県土成町（現阿波市）に 480 ミリを越える雨量をもたらしました。九頭宇谷川（くずうだにがわ）の翫城地（がんじょうじ）橋地点では水位が 2.4m と警戒水位を大きく突破し、橋上流数か所の堤防は決壊寸前の危機に瀕しました。このため、水防管理者（町長）の出動命令のもと全町あげて出動し、九頭宇谷川の両岸に土のう 500 俵を積み、木流し作業（しぶしという）を実施して堤防決壊を予防しました。懸命の水防活動により堤防は守られましたが、50m の風速と間断ない豪雨のため水勢が増し、木流しの鉄線が切れて流出し、代わりの木流しを投入しようとした分団員がその鉄線にからまり濁流にのまれて殉職するという出来事が起きました。これを機に九頭宇谷川の完全改修に関する要望が高まりました。翫城地橋のもとにお地蔵様が安置されています。〈土成町史編纂委員会編「土成町史上巻」1975 年〉



#### ■伊勢湾台風時の県職員の殉職（高知県安芸市）

昭和 34 年（1959）9 月 26 日、伊勢湾台風により、高知県下では死者 4 人、負傷者 78 人、家屋の全壊 66 棟、半壊 65 棟、田の流失 33ha、冠水 68ha、道路損壊 36 箇所などの被害が出ました。死者のうち 1 人は高知県安芸土木出張所の若手職員で、26 日午後 3 時半頃、安芸市伊尾木の大山岬の国道 55 号脇で大岩上に立ち、災害状況調査の写真撮影中に高波にさらわれて殉職しました。同行の上司 2 人も約 20m 離れた道路上に押し流され 1 人が重傷を負い、近くに停車していたジープも波にたたかれ破損し運転手も負傷しました。大山岬の現場には伊勢湾台風遭難碑が、高知県安芸総合庁舎前には殉職之碑が建立されています。〈高知県土木史編纂委員会編「高知縣土木史」1998 年〉

